

都道府県 秋田県

チーム名 ハチ森ブルーレオパ

氏名 山内優真 投手

四年生の夏。ぼくたちはハチ森ブルーレオパ
 ーズに入回しました。元々野球が大好きだったぼ
 くとちびですが、友達のお父さんの「おめだ、
 神宮で野球や。」とみねが。の一言で、いき
 に火が付きました。実はその頃、神宮球場の
 ことをよく知りませんでした。でも、ついに
 かく上手になつてたくさん勝つたらすごい場
 所で野球ができるんだ。絶対行きたい。」とい
 う思いだけで、先輩達に負けないくらい一生
 懸命練習しました。思うようにプレイできな
 い時やケガををして練習ができないう時もありま
 したが、それでもぼくたちはただひたすら
 「神宮」で野球をやることだけを目標にがん
 ばりました。

五年生の秋。自分がキャプテンとなつて新
 たなハチ森ブルーレオパースターになりました
 ももちろん新チームの目標は神宮で野球をやる
 こと。この頃から、ぼくたちの会話のほとん
 どは野球に関する話になつて、練習のない日
 も友達と集まつて草野球をするぐらい野球に

都道府県
チーム名
氏名

夢中になっ。ていきました。
 六年生の夏。舞台はマツク杯全県大会。神
 宮に行くには一回も負けられないのに、どの
 対戦相手も強いチームばかりでした。一回戦
 一点差でリードされたまま最終回の裏。普通
 なら「やばい」と思のにぼくたちは神宮に
 行くためにがんばって来たから、神宮に行く
 のは自分たちだ。という自信がありました。
 だから、だれもあせらなかつたり、あきらめ
 ませんでした。そんな気持ちでプレーに表れ
 てサヨナラ勝ち。二回戦も逆転サヨナラで勝
 利をつかみました。そしていよいよ神宮行き
 をかけた決勝戦。相手の五小フェニックスは
 隣の地区の代表で決勝で対戦することを約束
 していたチームでした。どちらも無得点のま
 ま、緊張した時間がすぎていきました。チャ
 ンスは一瞬でした。その時ようやく取った二
 点をなんとか守りきって優勝。優勝したこと
 もうれしか。たけび、それよりも夢の神宮を
 プレイできることが何よりもうれしか。たで

都道府県
チーム名
氏名

す。それまで戦ってきたチームは、どれも一人の選手が上手なわけではなく、全員が野球しているチームばかりでした。ぼくたちもチームワークに自信がありました。他のチームからいろいろなことを学びました。

舞台は神宮球場。夢にまで見た球場。そして、ぼくはその球場のマウンドに立っているプロのピッチャーが立っているマウンドに立っているなんて夢のようでした。やっぱり神宮はすごい所でした。今まで学んできたことを生かして一生懸命野球を楽しみました。気付いた時にはゲームセット。一回戦敗退。下も悔しくありませんでした。それよりもみんなと一緒に神宮で野球ができたことがとてもうれしかったです。友達のお父さんが話してくれた一言のおかげで目標がもって、その目標に向かっ自信をもった。がんばったことが夢の神宮につながった。と思うと、これからいろいろなことに目標をもった。全力で取り組んでいけば良い結果が出せると思います。野球

